

すぎなさん



三宅小学校同窓会 会報誌

三宅小学校全校児童数 113名（男57名 女66名）平成25年3月22日現在

平成25年3月22日発行

第8号

ご挨拶

三宅小学校同窓会長 前田勉（第47回 昭和31年卒 井ノ口区）



同窓会員の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。平素より、同窓会活動にご理解をいただき、温かいご支援とご協力を賜り心より感謝申し上げます。

同窓会とは、在校生の限りない可能性を温かく見守り、活動を応援し、支援していくことと考え、微力ではありますが大役を引き受けさせて頂きました。地域在住の同窓生をはじめ多くの方々がいろいろな形で母校である三宅小学校に献身的にかかわっていられていることを心強く思っています。

私どもも7年前から三宅小学校の子どもたちの生活リズム向上のために協力させて頂いています。時の岡本校長から生活リズムの実態把握の依頼を受けたことがきっかけですが、以降、今日まで睡眠・朝食を中心とした生活リズム向上に先生方と取り組んでいます。昨年末には、日本経済新聞で三宅小学校の取り組みが全国版で紹介され、知事と語る会の席でその記事を目にした西川福井県知事によって「個に応じた教育の実践例」として三宅小学校が名指しで紹介されるなど、母校が高い評価を得ていることを誇りに思っています。多くの方々のご尽力で培われてきましたこのような伝統が引き継がれていくと共に、必要に応じて時代の要求に応える変化を併せ持つことで、さらに母校が発展し輝きを増していくことを願っております。

結びに当たり、母校の益々のご発展と同窓会会員各位のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げご挨拶に代えさせていただきます。

会員の皆様へ

三宅小学校長 高橋繁応



三宅小学校同窓生の皆様方におかれましては日々ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。日頃は本校の教育活動に何かとご支援ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、私ごとですが、昨年4月より本校の校長を務めさせて頂いております。奇しくも、三宅小学校に勤務させて頂いたのは3度目となり、かつて勤務していた頃に小学生だった方々が、保護者になっておられ、感慨深いものを味わいつつも、時の流れを感じております。次代の三宅地区を担っていく子どもたちの育成のために、今何をなすべきかを日々考えながら、職員一同一丸となって努力しているつもりですが、まだまだ足りないことばかりかと存じます。皆様方にはご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

さて、今日の社会は、少子高齢化・グローバル化・情報化・価値観の多様化など、いまだかつて人類が経験したことのないような変化の激しい時代を迎えています。本校ではこのような変化の激しい世の中においても、困難にくじけずたくましく生きていける子どもの育成のために、自分の良さに気づくことによって自分を大切にできる児童の育成をめざして日々の教育活動に取り組んでおります。

皆様方には今後何かとお世話をおかけすることもあろうかと存じますが、よろしくお願い申し上げます。

同窓会便り

同窓会に参加しました

第54回（昭和38年）卒業生 亀田恵子（神谷区 金沢在住）

「耕ちゃん（河原耕一さん）が上中に帰ってくるようになったから同窓会やるよ」「えー、ついこの前やったん違う？」「いえ、もうあれから13年も過ぎていました。さらに還暦も過ぎていました。気づかないままに年月が過ぎ、卒業してからなんと半世紀を過ぎていました。「担任の諸先生方はどうされておられるかしら？お会いしたいね。」「大丈夫、全員出席していただけるよ。」遠く離れていて10年以上あっていない幹事役の岩崎さんとの会話です。同窓生とは、時間も空間も超えられる存在なのです。

ということで2012年11月4日、25人のクラスメートと田辺先生（1-3年担任）、鹿野先生（5年担任）、武倉先生（6年担任）の皆さんが市場のいち福に集いました。

田辺先生は、「膝が痛いだけで、内臓はどこも悪くないのよ。」と、50年前入学したてで不安いっぱい私たちをやさしく受け入れてくださった時と変わらない柔らかく包み込むようなやさしい先生のままで。3年間担任していただいたこともあり私たちにとっては母親のような存在でした。家庭訪問された時の情景や一人一人の細やかなところまで気配りされていたことをはっきりと覚えています。本当にお母さんのようでした。一人一人が大切な存在で大事にされなければいけない存在であることを実践のなかで教えてくださいました。「失敗してもいいんだよ、ゆっくり育ててね」というメッセージをいただいたと思います。

4年生担任の岡本先生は、当日ご都合悪くお会いできませんでしたが福井でお元気でお過ごしとの報告がありました。お天気が良かった秋のある日、教室から見える裏山を眺めて「みんなで山へ行きましょう」と。全員大喜びで外へ飛び出したことを覚えています。ところが悪がき3人位が時間を過ぎて帰ってこず先生が教頭から怒られてしまったことなどがいっばいありました。でもいまだに忘れられないのは福井の大地震の災害のことで家の下敷きになった人が助けを求める様子や腕をなでたり落したりして救助された様子など話してくださったことです。思いやりやいたわりの心を育てていただいたように思います。

5年生担任の鹿野先生の眼鏡の奥の目がやさしく表情はきりりとした風貌は当時と少しも変わらず50年以上の時間が過ぎていることを忘れてしまいそうでした。5年生の時クラスでなにか問題を起こしたことがあったとき（何を起こしたかは忘れましたが）、「身から出た錆」という言葉を出され、「みんなでよく考えるように。」と教指導いてくださいました。そして今回も今から高齢者の仲間入りをしていくであろう私たちに「転ぶな・風邪ひくな・義理をかけ」というお話をしてくださいました。そして一人一人に先生直筆の書をいただきました。生涯現役の教師を貫かれているお姿に感激しました。もう一つ忘れられないことは、5年生の時鹿野先生の紹介で埼玉県の小学校の5年生と文通が始まりました。私は今もその時の方と文通を続けています。クラス会の席上そのことを報告したら「そうだったね。送られてきた御家宝というお菓子をクラスみんなで食べたね。」と覚えていてくださいました。貴重な体験を通じて世界を広げてくださった先生は今も私の自慢の一つです。

6年担任の武倉先生は当時もお父さんという感じでしたが今も変わらず私たちのお父さんでした。当時から好きだっ

たお酒をたしなまれながら今回も教え子たちの思い出話をにこにこ聞いてくださいました。歌がお好きでよく歌ってくださったり終礼の会で毎日「遠き山に日は落ちて・・・」と合唱を取り入れたり思い出をいっばい作っていただきました。希望者には放課後に当直室で勉強を見ておられたことも覚えています。最大の思い出はしゃれこうべ事件です。悪がき数人が本物の頭蓋骨を教室に持ち込んだことです。女子生徒はとて怖がって大騒ぎになったことを覚えています。今回初めて当時先生方が骸骨の供養をしたりして事件の収束を図られたことを知りました。本当は大事件だったのです。男子は野球の練習時に女子はソフトボールの練習時にバットでおしりをたたかれたこと。6年生の時は各自が将来何になりたいかを真剣に考え始めたときでした。作文を書かされ友達と話し合ったことなど懐かしい思い出です。喧嘩したり、叱られたり、いじめられたり、迷惑かけたり私たち36人のクラスメートはいろんな体験をしながら、6年間学び育ち成長してきました。しかし人のこころを傷つけたり、人格を否定したりせず、先生を信頼し、級友と信じあって育ちあえる環境に恵まれていた私たちは本当に幸せだったと改めて感謝しました。

思い出は際限なく広がります。桜並木の校庭で家族そろってお弁当を広げた運動会・すぎなさんのおいしい水・雪の積もった日は講堂から外へジャンプして遊んだこと・裁縫室で映画会があったこと・トイレが怖かったこと、臨海学校にそら豆を持って行ったこと、今では大切な思い出です。毎年お誕生日に写真を撮ってくださった谷口校長先生、みんなとても大切にされていたという思い出でいっばいです。今でも自慢で誇りの三宅小学校です。

さて、同窓会に集まったメンバーは25人、女子はすぐ誰かわかったけれど、男子は相当にかわって誰かわかりませんでした。しかし、当時のことを話しているうちに顔がいつの間にか子どもの顔に戻って違和感なく話すことができました。不思議です。まるで母親の胎内にいるときのような安堵感を感じました。

こんな幸せな小学生時代を過ごせたのは、戦後混乱期が終わったころだったこと、6年間同じクラスだったこと、36人という適切な人数だったことなど良い条件がいくつもあったためだと思いますが、のびのびと子どもらしく育つための良い教育環境と良い教育者に恵まれていたからだだと心より感謝いたします。これからも愛情という栄養で育てられた私たちは健康で思いやりのある三宅小学校卒業生として同窓会の回数を重ねていければと願っています。



思い出

第62回（昭和46年）卒業生 武長たつ美（三宅区）

何となく薄暗い石段を駆け上がると、そこには今まで見たことのない美しい花をつけた大きな木が目にとびこんできた。お寺にある銀杏の木や、お宮さんの椎の木位しか知らぬ山猿には、学校にある大きな桜の木は、もうそれだけでカルチャーショックであった。たかが桜の木1本でだ。

さいた さいた さくらがさいた。 絵や文字がいっぱい並んだ教科書をもらうと、それこそ偉いさんになった気分だった。見るもの聞くもの何もかもが驚きで、ひんやりした講堂にある肋木やピアノは何やら憧れのようなものだった気がする。

頑張っって勉強した覚えはないが、家では見られぬ



皆既日食の観察

もの、知ることのできないものを学校という所で身に付けさせていただいた。学校という所はそういう所であった。そこには不登校などというものもなく、ケン

カしながらも皆が毎日、臆することなく学校に行った。

友達と遊んだ所、運動会で弁当を食べた所、すぎなさんに降りる道、そのどこにでも大きな木があって、ひんやりした木陰があった。昔にも、暑い夏はあったろうに、今のようにジリジリと耐えかねる暑さは覚えはない。自然が守ってくれる学校には熱中症などというものは無縁だったのだろう。

今から比べれば、何もかもが地味な小学校生活だったが、いい時代に小学生だったとつくづく思う。

三宅小学校は、100年もの長い間、ずっと子どもたちを守りながらあの場所に鎮座し続けた宝ではないか。三宅の里の宝を皆で守っていききたいものである。



親子ふれあい学級

回想

第92回（平成13年）卒業生 百田友洋（神谷区）

私が三宅小学校を卒業して10余年が経ち、今年もまた雪の季節がやってきました。私は現在地元を離れ、加古川で暮らしていますが、この辺りはあまり雪が降らず積もることもほとんどありません。毎年冬に実家に帰省すると、一面真っ白になった景色が広がり、小学生のころの思い出が甦ってきます。

当時、授業が終わり、放課後になると外に飛び出し、下校時間ぎりぎりまで雪合戦をしたことを覚えています。下校時間になると今度は帰り道での道草が始まります。除雪車の通った後にできた雪山にのぼったり、真っ白な新雪の中に飛び込んだりと普段の何倍も時間をかけて家に帰りました。体育の授業のスキーもとても楽しみでしたし、今では考えられないくらい冬を満喫していたと思います。

また、私たちの在学中にパソコンを使った学習の導入もありました。当時の図書室の隣にパソコン室が設置され、授業やクラブ活動でパソコンを使うようになりました。特にクラブ活動では、パソコンを使ってレポートを作成したり、海外の子どもたちとメールを使った文通をしたりと当時の私たちにとって、とても新鮮で貴重な体験をすることができました。はじめはおもちゃ感覚で中に入っているゲーム

が目的でパソコンを使っていた私たちも、授業、クラブ活動で触れていくうちに自然と活用の幅が広がり、新しい学習の形を実感していきました。

たった10年ですが時代は変わり、登下校中の事故や犯罪、情報社会での事件等がニュースで取り上げられています。私たちが、そういうことを深く思うことなく遊び、学べたことをありがたく思うとともに、実は先生や家庭、地域の方々に見守られていたからこそ出来たことと、とても感謝しています。

これからも、子どもたちが安心出来る環境のために、皆様で見守って頂きたいと思います。

最後になりましたが、当時遊んだ友達やお世話になった先生方が、お元気でご活躍されていることを願うとともに、また会える日を楽しみにしています。



校庭で雪遊び

ようこそ先輩

正木健一さん ふるさとコンサート

2月3日(日)三宅小学校で正木健一さんふるさとコンサート「ドラムでドン！」(PTA主催・親子日曜学級)が開催されました。正木健一さんは、昭和60年の三宅小学校卒業生で天徳寺区の出身です。上中中学校時代は陸上競技で100m走や幅跳びの記録が破られずにまだ残っているほどスポーツも万能でした。現在、東京在住でドラムだけでなく、作曲やアレンジ・プロデュースなど幅広く音楽活動に従事されています。



優しい語りの中で、子どもたちは親しみをもち、音楽や話に聞き入っていました。本校の卒業生でもあるということで、より身近に感じることができたようです。また、ワークショップでは、子どもたちののりのよさに、大人も一緒に楽しむことができました。正木健一さんは、子どもたちには夢を持ってがんばってほしいこと、また、自分がやりたいことがあったらお家の人に話をしてみるといいということ、そして、きっとお家の人も一緒になって考えてくださるといことなど、お話してくださいました。最後に、「みんなも夢を思い描いていれば、そして努力すれば、夢はきっと叶うと思います。」と終えられました。

(正木健一さんと子どもたちが一体となる、あっという間の1時間でした。)

三宅小学校 同窓会費 決算報告

収入の部

項目	金額(円)	備考
前年度繰越	26,232	
会費	116,700	300円×389人
入会金	14,500	500円×29人
貯金利息	6	
計	157,438	

支出の部

項目	金額(円)	備考
事務費	5,820	印刷用紙・切手代
同窓会会報誌	54,600	同窓会会報誌印刷費
維持管理費	50,000	芝生駐車場管理
積み立て	30,000	
計	140,420	



井ノログラウンドゴルフ愛好会の方や老人クラブの方々を中心に、芝生駐車場の整備をしてくださいました。ありがとうございました。

差引残高

17,018円は、次年度の会計に繰り越させていただきます。

平成25年3月22日

三宅小学校同窓会事務局

編集後記

第8号を発刊するにあたり、今回は同窓生からの投稿と、三宅小学校卒業生、正木健一さんのコンサートの様子を掲載しています。三宅小学校校区には、他にも素晴らしい先輩方が多くいらっしゃいます。みなさんも学校の方へ足を運んで頂けると嬉しいです。

最後になりましたが、同窓会員皆様方の御健勝を御祈り申し上げます。

平成25年3月吉日

平成24年度 三宅小学校同窓会 会報誌 編集委員

玉井 実 (三宅区理事 第56回卒)

玉井 治雄 (三宅区理事 第57回卒)

百田 正三 (神谷区理事 第52回卒)

田中 敏明 (神谷区理事 第57回卒)

岩崎かず代・高柳志帆 (同窓会幹事)

同窓会会報誌は、三宅小学校ホームページでも配信しています。

<http://kore.mitene.or.jp/~s-miyake/>

同窓会事務局住所

〒919-1542

福井県三方上中郡若狭町井ノ口49-11

三宅小学校内

電話：0770-62-0005

FAX：0770-62-0038

電子メール：miyake-es@edu.town.wakasa.fukui.jp